

神戸新聞 学校ぐるみ

生徒数が県内で二番目に多い姫路市立朝日中学校(同市網干区坂出)が、本年度から希望する全校生徒を対象に、放課後の学習指導に取り組んでいる。毎日、授業終了後の三十分間、教室を開放し、教諭らが生徒の基礎学力向上をサポートする。教諭が個人的に空き時間を使って指導する例はあるが、学校を挙げて「寺子屋」を開設する取り組みは珍しいという。同校は「生徒たちにきめ細かく教えることで、学ぶ楽しさを実感してほしい」と期待を寄せている。

(井関 徹)

姫路市立朝日中学校



イラスト・スギモトミネハル

放課後寺子屋

希望者に 基礎学習

「寺子屋」は、教諭らの「生徒たちが納得できる進路を選ばせたい」との思いをきっかけに始まった。その名も「がんばり学習」。プリントなどを使い、授業ではできない

同校の生徒数は千人と、公立校では明石・二見中に次いで多い。最近では部活動の活躍が目覚ましく、昨年は柔道や水泳、軟式テニス、陸上部の約二十人が全国大会に出場した。

納得できる進路選択を支援

基礎学習に取り組む。生徒が教材を持ち込むこともできる。各学年の担当教諭が指導に当たり、時間があれば他の教諭も駆け付ける。

「勉強は分らないと面白くなくなる」。現場での実感を踏まえ、高校受験を控える三年生だけではなく、全校生徒に参加を呼び掛けた。

現在、参加する生徒は毎日数人にとどまるが、生徒との接点ができることで、教諭が部活動に参加していない生徒らに声をかけやすくなる利点もあるという。

山田実校長は「数は少なくても門戸はいつも開いておきたい。生徒が望む進路を選び、後悔することなく卒業してほしい」と話している。